

誰ひとり見逃さないまちづくりを進めるための総合相談体制の整備を



社民・民主・護憲クラブ  
古庄 和秀 議員

ことで対応可能との考えが、緊急断水の遅れた原因と考える。

今後は、この経験を単なる記憶として風化させることなく、寒波

から解消までの過程から得られた教訓を踏まえ、今後の水道事業運営に生かしていく。

また、2月に職員対応要領を策定しており、全職員対象の研修も実施する予定である。

**問** 市役所内で様々な障害のある方が働くことがモデルとなり、共生のまちづくりが進むと思うが、考えや進捗は。

**答** 共生社会の実現に向け、市民や事業者に先んじて取り組んでいく必要がある。知的、精神など障害のある方の採用拡大は、先進事例を視察等した上で、28年度より職場実習の試行をし、可能な業務を見きわめ拡大につなげたい。



だんだん増えているスロープ付きバス

市長が描くまちの将来像

**問** まちの将来像を聞きたい。

**答** あすを担う人づくりに力を入れる必要があると考える。

また、みんなが夢や希望を持ち、元気でお互いが笑顔で挨拶を交わし、まちなかには多くの人があふれ、行き交う、明るくにぎわいのあるまちをイメージしている。

誰もが住みやすく、あらゆる世代が成長できるまちを目指し、取り組んでいきたい。

**問** 市史編さん事業の進捗状況と課題を聞きたい。

**答** 基本方針に沿って資料の調査、収集などを行ってきた。50年間の歴史をまとめるほか、現行市史の見直し、補強を行う追補編、資料編、また100年間の本市の歴史を振り返る「年表と写真で見る大牟田市の100年」を作成していく。

緊急断水と今後の減災のまちづくり

**問** 今回の総括を聞きたい。

**答** 過去にも寒波による給水管の破損や漏水があり、今回も通報のあった漏水をとめる

今、岐路に立つ高齢障害者福祉

**問** 障害者総合支援法改正案についての考えを聞きたい。

**答** 今回の改正案は、30年4月の施行予定で、本市としては、国の法整備等を注視しながら、適切に対応していく。

**問** 介護保険優先の原則に伴い、複数の全盲の方が介護保険で自立判定になるのは間違いと思うが、市長の考えは。

**答** 障害福祉の支援により日常生活の維持ができていた方が、64歳で非該当になることには矛盾を感じる。障害福祉と介護保険の制度の違いはあるが、日常生活に影響を与えず、その人の暮らしが継続できるように支援していく取り組みが大切と考える。

障害者差別解消法施行と行政サービスのあり方

**問** 4月の法施行に向けた準備状況について聞きたい。

**答** パンフレット、出前講座、広報誌などで市民周知を行う。

求められるこれからの総合相談体制

**問** 子ども、高齢者、障害者、女性、生活困窮者など、様々なお困り感のある方々が総合的に相談を受ける「誰ひとり見逃さない相談体制」が必要と思うが、考えを聞きたい。

**答** 困り事を抱える方を一人も見逃さない総合相談体制は大変な理想で、実現に向けて努力すべきだが、大変困難なものもあり、課題と考える。

庁内や関係機関との連携を強化し、課題を抱える方の相談支援体制を適切にコーディネートする人材の育成も必要。

今後も、総合相談体制の充実に努めていきたい。